

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中の部

令和三年度六月 入賞句一覧

投句数 二千三百八句



特選

遠藤 幹郎 選

夕ぐれにえ顔はじける庭花火

大垣市

田代 友理（小四）

「え顔はじける庭花火」がいいですね。暑い夏も夕暮れともなると涼しくなります。夕涼みもかねて、庭花火にうち興じている姿が浮かんできます。"え顔はじける"から、線香花火のパチパチと音を立てて散るさまと、声を上げて楽しそうに遊んでいる様子が、実に生き生きと詠み上げられています。

たんぽぽの種が飛んでくひとりたび

大垣市

松浦 優子（小六）

「種が飛んでくひとりたび」がいいですね。黄色いたんぽぽの花は、春の代表花です。花が終わると実を結び白いわた毛をつけます。これは、たんぽぽの絮といえます。それが風に乗って空を飛ぶさまは、見ものです。子孫を残すために、ひとり旅に出るのです。一人立ちの「ひとりたび」に出るのですね。

石ぼん玉やさしい風につてゆく

大垣市

安田 桃々（小五）

おだやかな天候の中、作者は石ぼん玉遊びをして楽しんでたのですね。石ぼん玉は、ストローを石けん水に浸して軽く吹くと美しい七色の玉が次々に生まれ空に漂っては消えていきます。「やさしい風につてゆく」がいいですね。だれもが、そうつと吹いて大きくふくらませ、遠く、高く飛ばしたいと思うでしょう。幸い、今日は風もやさしく吹いてくれたので、どこまでも消えずに飛んでいつてくれたことでしょう。

秀逸

つばめさん毎朝かくにん来てるかな

大垣市

斗内 音瑠（小六）

竹のこさんたくさんふくをきているね

大垣市

吉國 良（小二）

びわのみがだんだん黄色くなつていく

大垣市

とみた せいたい（小二）

ほたるがりほたるいつぱいすてきだな

大垣市

安江 海翔（小四）

ぼんおどりみんなのかげがおどってる

大垣市

富田 莉央（小四）

こいのぼり空を見上げて風を待つ

加茂郡川辺町

長尾 緋奈乃（中三）

兄弟でしゅくだい多いとさけぶなつ

大垣市

坂下 りあ（小五）

ははのひにないしよでかつた花のたば

大垣市

折戸 里桜奈（小五）

飛魚の羽がきらりと光ってる

大垣市

土屋 遼人（小五）

あめんぼがかわのながれにながされる

大垣市

田中 咲希（小三）

入選

サイダーのむこうがわにはあおいそら	大垣市	山田 空華(小四)
向日葵が私の背丈をこしちやった	加茂郡川辺町	川崎 愛心(中一)
かきごおり食べて舌だし笑い合う	加茂郡川辺町	堀江 冬柚(中二)
オクラさんまいにちおみずをあげたいな	大垣市	ないとう みゆ(小二)
ありのみちありがたべものはこんでる	大垣市	わたなべ たくと(小二)
なつの海いっぱい思いで作れそう	大垣市	原 梨央南(小三)
かきごおりこおりのやまに見えてくる	大垣市	神谷 凜(小三)
ひまわりがかぜにおされておどつてる	大垣市	仙石 羽花(小三)
スイカわりちからをこめてたたくん	大垣市	上田 とわ(小三)
さくらんぼたべるとあまいまたたべる	大垣市	石黒 千恵(小三)
田植してあしがとられてころびそう	大垣市	加納 英汰(小五)
ごろごろとねそべっている夏の昼	大垣市	神村 奏多(小六)
やまよりもわたしはうみにいきたいな	大垣市	さわ 悠月(小二)
あおうめをそふぼのためにとりました	大垣市	たかみつ ゆうこ(小二)
雲海が広がりつつある富士の山	加茂郡川辺町	日比野 遥生(中一)
汗かいて自転車をこぐ通学路	加茂郡川辺町	加藤 葵衣(中一)
プールには冷たいシャワー待っている	加茂郡川辺町	小川 葵(中一)
一人見るカーテンあけて夏の月	大垣市	谷 明音(小五)
かたつむり葉っぱにかくれて雨やどり	大垣市	安田 侑史(小五)
ひなまつり祖母とつくったひな人形	大垣市	日比 理人(小五)

選者吟

雨にぬれ雨をこぼして花菖蒲

幹郎



小中の部